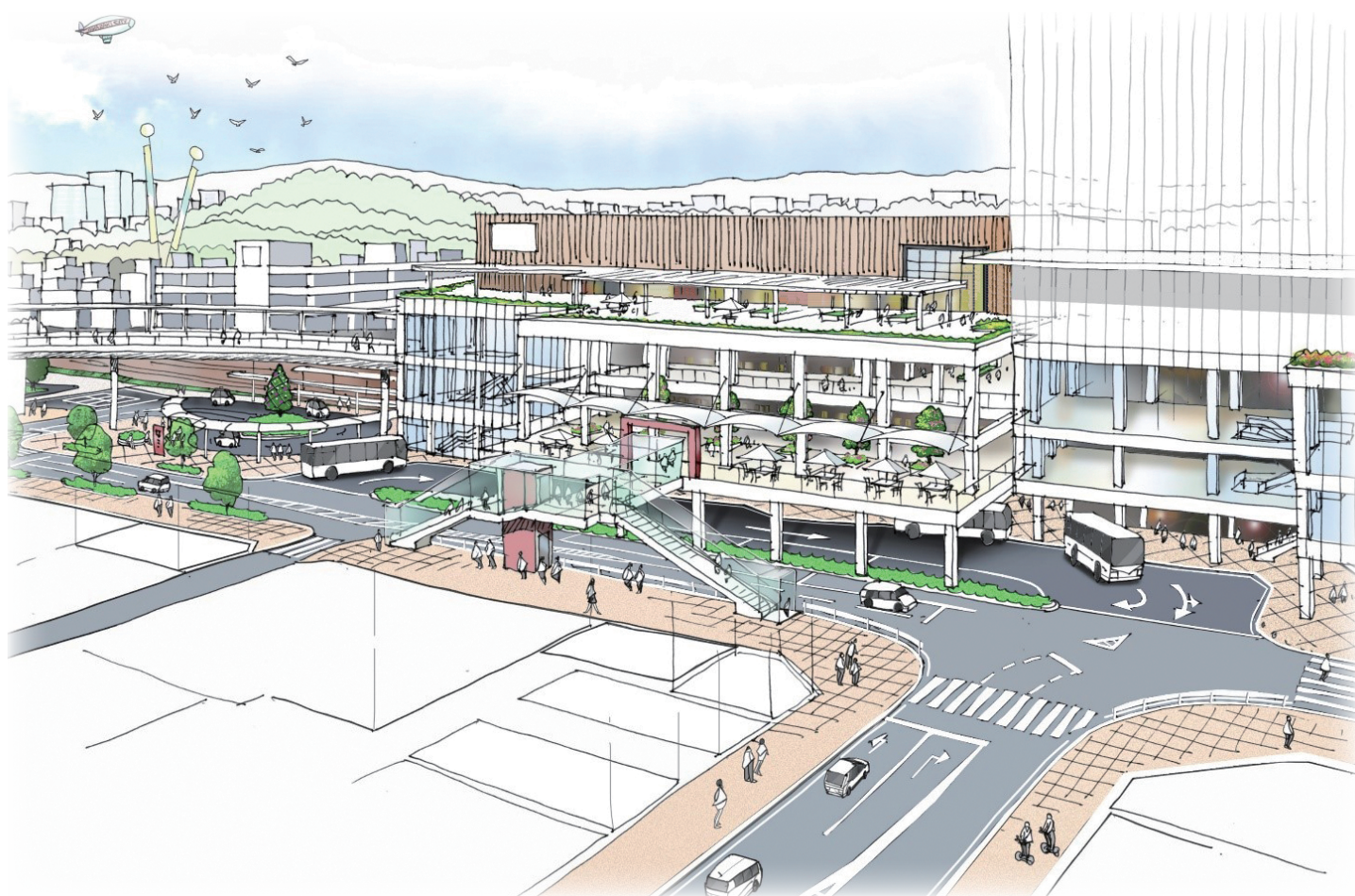


東岡崎駅北口駅前広場 整備計画

改定版



令和5年11月 岡崎市

目 次

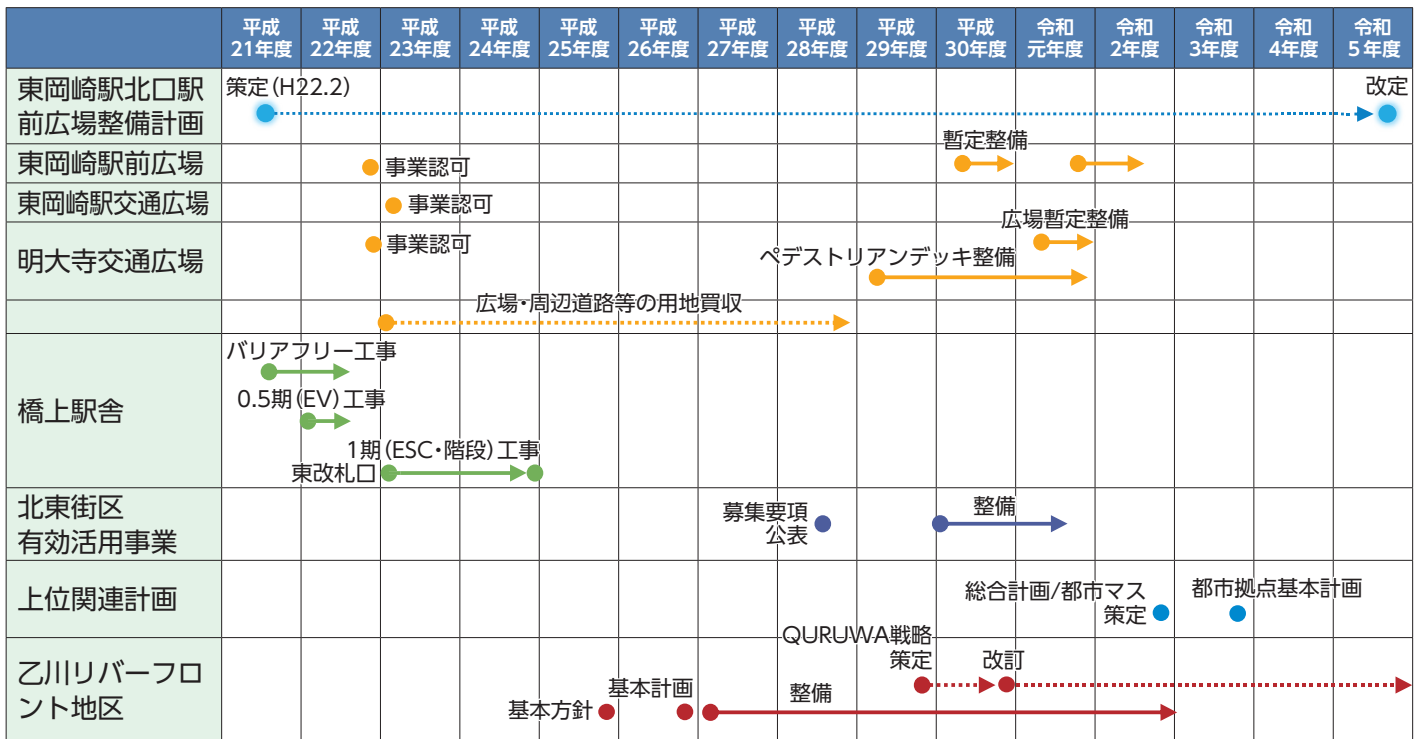
1	背景・目的	1
2	東岡崎駅周辺地区の位置づけ・将来像	3
3	基本コンセプトと目標	5
4	整備計画	7
5	東岡崎駅周辺地区整備事業の概要	14
6	今後の整備スケジュール	16

1 背景・目的

東岡崎駅北口駅前広場整備計画改定までの経緯

東岡崎駅周辺地区では、平成21年度に策定した東岡崎駅北口駅前広場整備計画で取りまとめた整備スケジュールに従い、これまでに、駅舎のバリアフリー化や東改札口の設置、駅前広場整備等、交通結節点としての機能強化を進めてきました。

東岡崎駅北口駅前広場整備計画改定までの経緯（主に第1期整備）



上位計画の改定

第7次岡崎市総合計画や岡崎市都市計画マスタープランの改定、及びQURUWA戦略、岡崎市都市拠点基本計画等が策定され、東岡崎駅周辺の新たな位置づけが示されました。

社会情勢の変化

「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基いた都市構造への転換や「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりの推進等、“まち”を取り巻く環境が変化しています。

民間動向

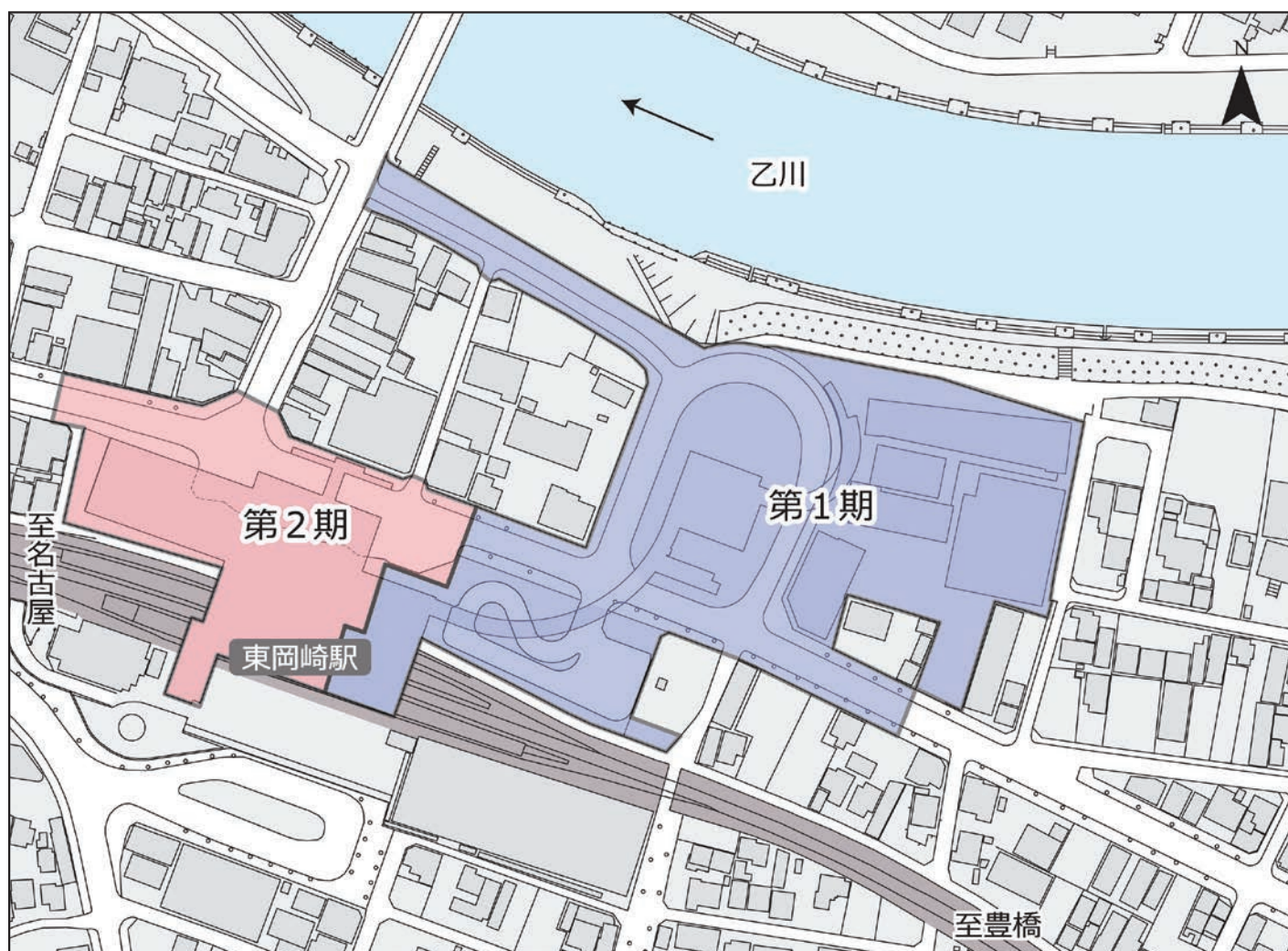
令和元年度に民間資本・活力を活かした東岡崎駅周辺地区整備北東街区有効活用事業「オトリバーサイドテラス」が竣工しました。
さらに、令和4年3月には、名古屋鉄道株式会社が東岡崎駅(北口・南口)の再開発計画について詳細を発表しました。

東岡崎駅北口駅前広場整備計画改定の目的

これまでの整備状況や、上位計画の改定、社会情勢の変化及び民間の動向を踏まえながら、引き続き、中核都市・岡崎の玄関口に相応しい、誰もが使いやすく、充実した都市機能を兼ね備えた、来訪者への『おもてなし』とまちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値の向上）の起点となる東岡崎駅を整備することを目的とします。

東岡崎駅北口駅前広場整備計画の範囲

平成21年度の計画策定以後、令和2年度までに整備を進めてきた箇所を第1期として整理します。また、今後第2期整備として、主に東岡崎駅を中心に整備を進めていきます。



2 東岡崎駅周辺地区の位置づけ・将来像

今後の第2期整備を進める上で、改定された上位計画での位置づけや、関連計画における将来像について整理します。

第7次岡崎市総合計画（令和3年3月策定）

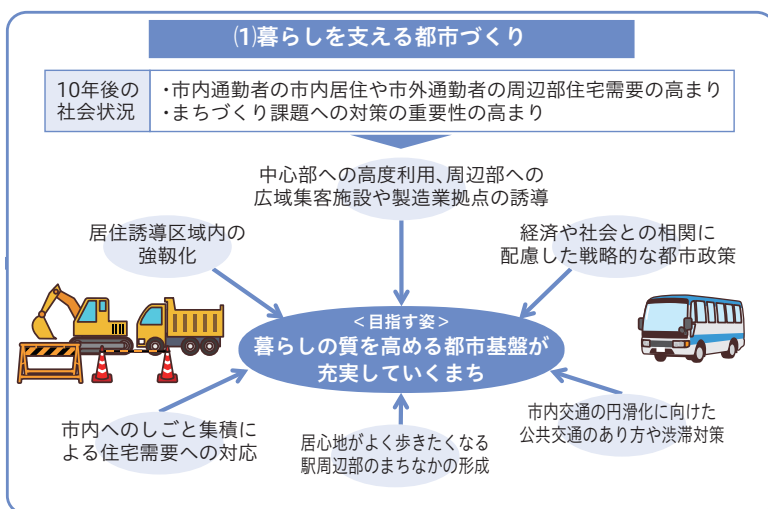
●将来都市像

「一歩先の暮らしで三河を拓く 中枢・中核都市おかざき」

●「暮らしを支える都市づくり」の政策指針

公共投資と民間投資のベストミックスにより多世代・多機能な骨太の集約連携型都市を実現し、市民の暮らしの質の向上を図るため、市域中心部における土地の高度利用の促進や**駅周辺部において居心地がよく歩きたくなるまちなか形成**に取り組みます。

この取り組みを踏まえ、将来都市像の実現に資する事業として、**東岡崎駅周辺地区整備事業やQURUWA戦略推進事業**を実施します。



岡崎市都市計画マスタープラン（令和3年3月策定）

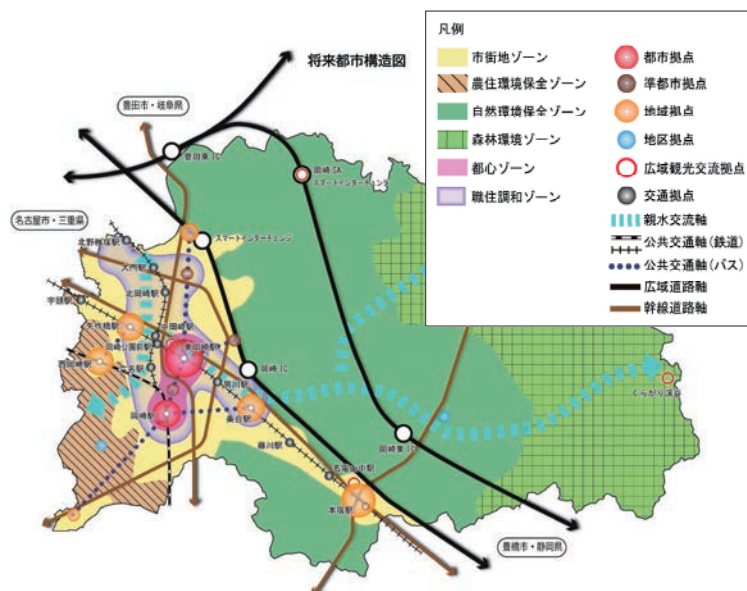
●基本理念

『自然・歴史・文化を礎に新たなくらしと活力を創造する風格ある都市 岡崎』

●東岡崎駅周辺地区の位置づけ

西三河地域の広域的な拠点として、自然・歴史・文化といった地域資源を生かして居住機能や商業・業務機能など複合的な高次都市機能の集積と土地の高度利用化を進め、便利で快適な都心づくりを目指す「都心ゾーン」の「都市拠点」として位置づけています。

これらを実施する施策として、**駅前広場や周辺道路の市街地整備や駅ビル再生や周辺建物の高度利用の誘導**をします。



岡崎市都市拠点基本計画（令和4年1月策定）

社会情勢の変化に対応し、将来にわたって持続可能な都市づくりが進められるよう、集中的に事業・施策を実施すべきエリアの選定と、市街地再開発事業等の施策方針を定めることを目的としています。

本計画では、東岡崎駅周辺と岡崎駅周辺を拠点として位置づけています。

●東岡崎駅周辺の将来像

- ①自然・歴史・文化を生かした活力と風格を感じられるまち
- ②公民連携による良質で多様なコンテンツが体験できるまち
- ③良質な公共空間を生かした質の高い暮らしができるまち

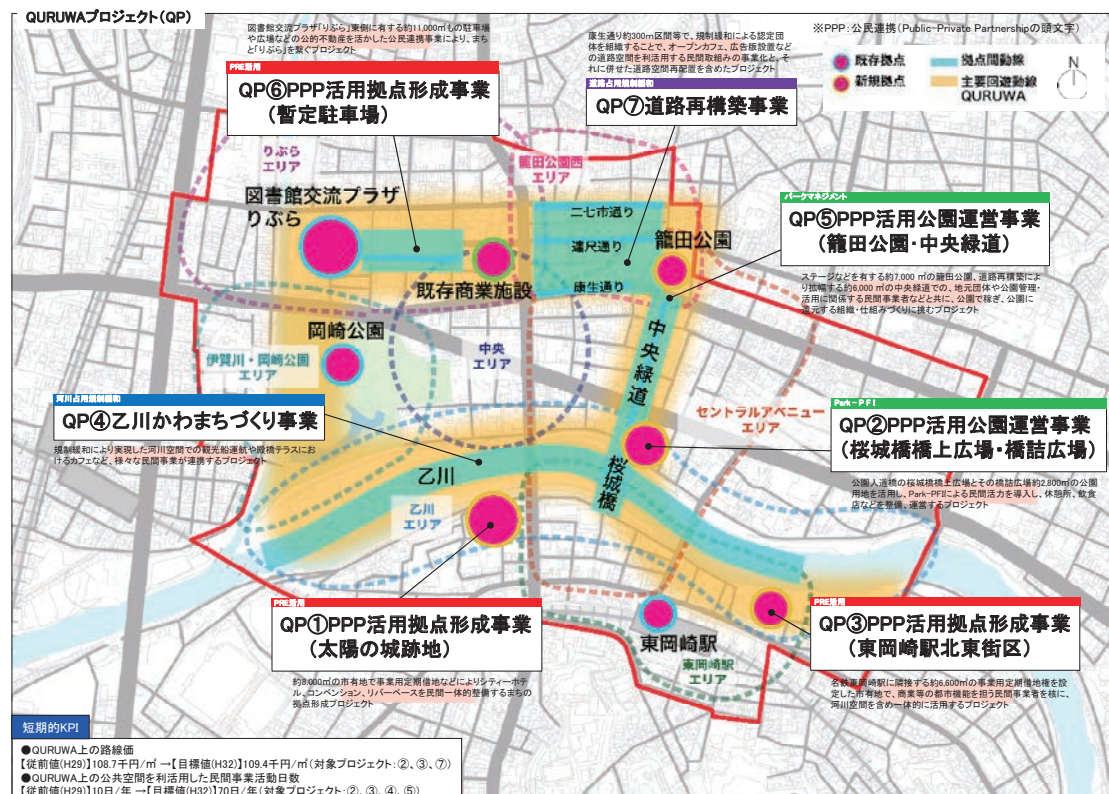
QURUWA 戦略（平成31年3月改訂）

乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用した公民連携プロジェクトを実施することにより、QURUWA（東岡崎駅、乙川河川緑地、りぶら、岡崎公園などの公共空間拠点を結ぶ約3キロのまちの主要回遊動線）の回遊を実現させ、まちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値の向上）を図る戦略として、「QURUWA戦略」を策定しています。

●東岡崎駅エリアの将来像

『来街者に対するおもてなしの玄関口』

- ・観光客の玄関口としての優れた景観
- ・交通手段相互の乗り換えが効率的かつスムーズに行える交通結節点
- ・乙川にスムーズに誘導する歩行者動線
- ・回遊性を高める情報発信



QURUWA
ウェブサイト



quruwa.jp

3 基本コンセプトと目標

基本コンセプト

誰もが使いやすい にぎわいの交流拠点

東岡崎駅を核にして、駅とまちを一体的に整備することにより、交通、商業、生活、観光、情報などの都市機能を連係させ、市民や来訪者など、誰もが安心して使いやすい個性的な交流・生活空間を創出する『**誰もが使いやすい にぎわいの交流拠点**』の形成を目指します。

基本コンセプトに基づく4つの基本目標

誰もが
使いやすい

① 駅とまちをつなぐ

駅舎、駅前広場、駅ビル等の一体的な整備を行うことにより、乗り換えの利便性・快適性の向上につながる**交通結節点の機能強化**と、**歩行者動線の最適化**を目指します。

② 駅とまちで交流する

公共交通の利用促進をはじめとする高齢社会における**日常的な生活利便性の確保**とともに、日々の豊かな暮らしを支える多様な交流を育む**公共空間の活用の促進**を目指します。

③ まちの玄関口にふさわしい駅

岡崎市の広域的な交流拠点として、持続的にサービスを維持するため、民間主導の公民連携を進めながら、**都市機能の更新と充実**を図り、「にぎわいと交流」を創造する拠点づくりを目指します。

④ 駅からひろがるまち

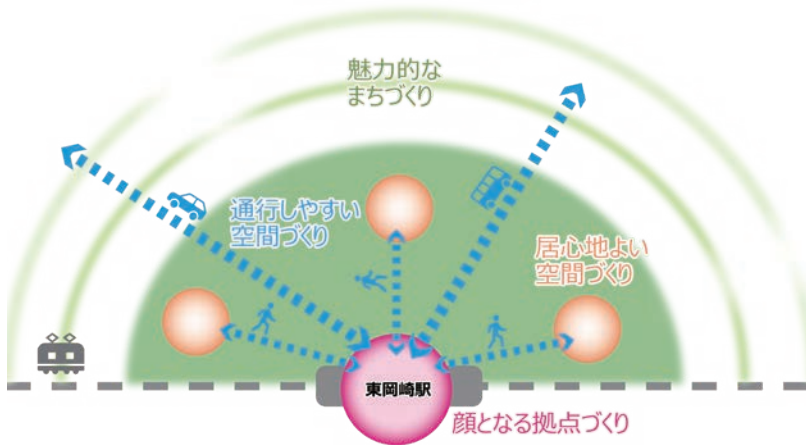
緑豊かな乙川や六所神社などの愛着のある風景や地域を象徴する資産・資源をデザインに生かすことで、まちのシンボルとなる景観形成を目指します。

また、駅と市民共有の財産である自然や歴史、暮らす人々の活動を有機的に結びつけることで**回遊性の向上**を図ります。

にぎわいの
交流拠点

整備における基本的な考え方

整備の基本的な考え方としては、駅とまちをつなぐ「通行しやすい空間づくり」、駅とまちで交流する「居心地よい空間づくり」に大別して駅前空間の整備を考えるとともに、まちの玄関口にふさわしい「顔となる拠点づくり」、駅から広がる「魅力的なまちづくり」についても公民で連携しながら整備することを見据えて、基本的な考え方を整理します。



(資料) 駅まちデザインの手引き (国土交通省)

整備における方針

駅とまちをつなぐ ～通行しやすい空間づくり～

交通結節点の機能強化

I. 適正な交通処理空間の配置による乗り換えの利便性・快適性の向上

歩行者動線の最適化

II. ユニバーサルデザインによる安全で円滑な歩行者動線の確保



駅とまちで交流する ～居心地よい空間づくり～

日常的な生活利便性の確保

III. 公民連携によるまちの魅力を形づくる暮らしの利便性向上

公共空間の活用

IV. 公と民の境界を感じさせない多彩な空間の活用と新たな交流機会の創出



まちの玄関口にふさわしい駅 ～顔となる拠点づくり～

都市機能の更新・充実

V. 鉄道事業者との連携による都市機能の更新・充実



駅からひろがるまち ～魅力的なまちづくり～

回遊性の向上

VI. まちの文化やコンテンツと出会う機会を増やすことによるまちの魅力づくり

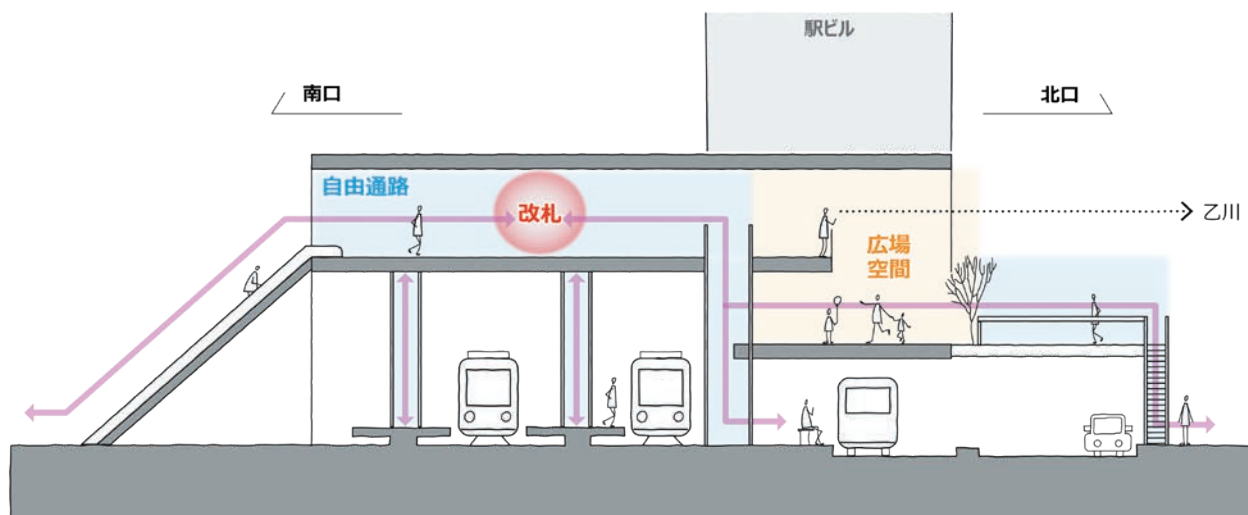
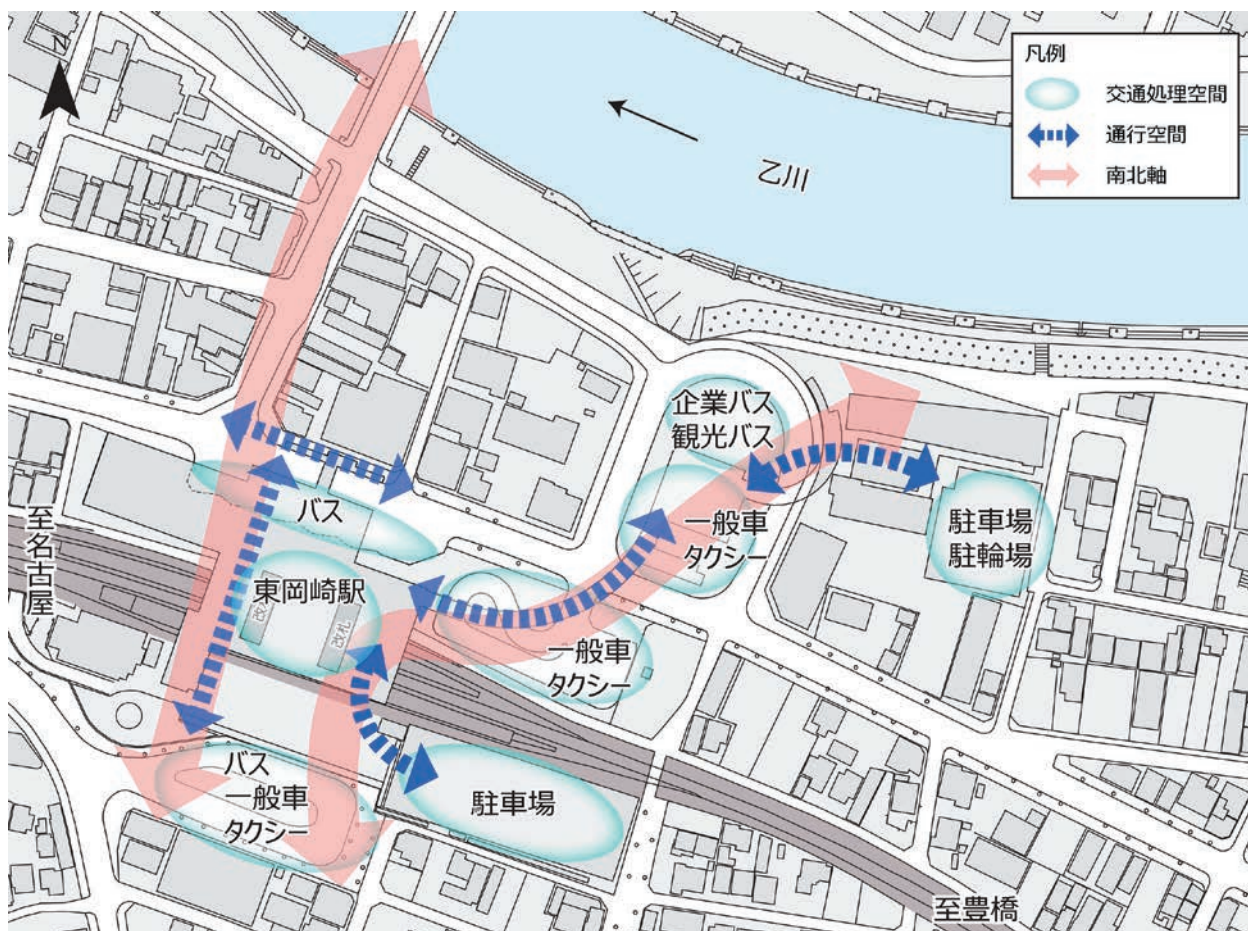


4 整備計画

駅とまちをつなぐ ～通行しやすい空間づくり～

【整備方針】

- I. 鉄道、バス、タクシーなどの交通を処理する空間を適正に配置し、乗り換えのしやすさを確保します。
- II. 誰もが安全で円滑に移動しやすいユニバーサルデザインによる歩行者動線の最適配置により、駅周辺における回遊性向上を図ります。



【これまでの整備と効果】

●東岡崎駅ペDESTリアンデッキ

駅から明大寺交通広場や「オトリバーサイドテラス」、乙川を直接往来できるよう、ペDESTリアンデッキでつなげました。



効果

- ・安全な歩行者動線を確保
- ・駅利用者の利便性が向上

●東岡崎駅前広場

一般車乗降場を増設しました。



効果

- ・交通結節機能が強化
- ・流入交通量の目標達成

●明大寺交通広場

企業・観光バス乗降場、一般車の乗降場を増設しました。



効果

- ・交通結節機能が強化
- ・流入交通量の目標達成

●東改札口

鉄道事業者が行う駅舎のバリアフリー化設備工事とあわせて東改札口を整備しました。(鉄道事業者との共同事業)



効果

- ・鉄道駅のバリアフリー化
- ・駅利用者の利便性が向上
- ・乗降客数の目標達成

【今後の主な整備内容】**■北側立体横断施設の整備**

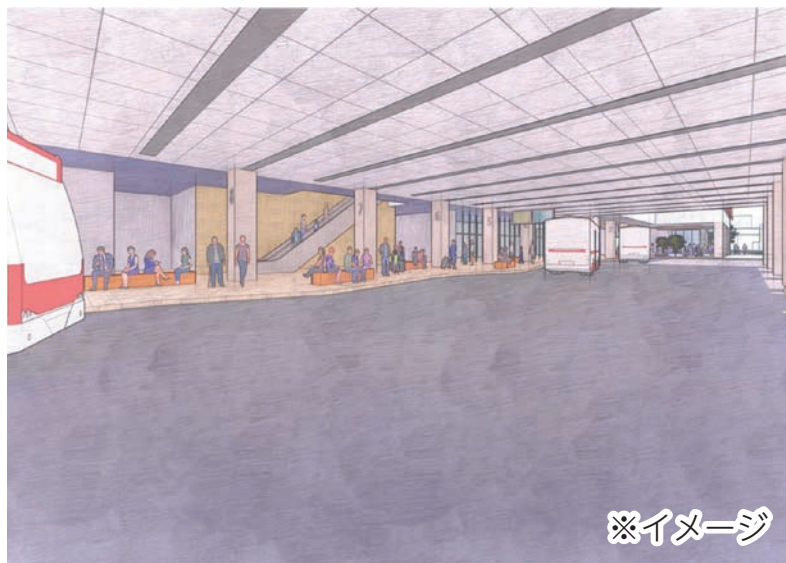
現在の地下道に代わるユニバーサルデザインに対応した立体横断施設を整備します。

**■南北をつなぐ自由通路の整備**

駅機能の橋上化にあわせて、幅の広いゆとりのある自由通路を整備します。また、駅ビル内のエスカレーターを活用するなど、鉄道事業者と連携して歩行者支援施設の拡充を図ります。

**■バスターミナルの整備**

天候に関わらず快適に乗り換えできる空間を整備します。

**■東岡崎駅前交差点の改良**

駅前道路の円滑な交通を確保するため、交差点形状を改良するとともに、信号サイクルを見直します。

● オト リバーサイドテラス

民間資本、民間活力を活かした公民連携による複合施設を整備しました。

駐車場や駐輪場のほか、レストラン、カルチャースポット等暮らしを豊かにしてくれるお店が入っています。



効果

- ・ 公共用地の有効活用
- ・ 都市機能の強化



【今後の主な整備計画】

■ 広場空間の設置

多様な人が集い、滞在し交流できる広場空間を駅ビル内に設置するとともに、民の持つ自由な発想と公が持つ安心感が融合した運営を検討します。



※イメージ

■ トイレの設置

車椅子等の障がい者や荷物を携帯する旅行者も使いやすく快適で清潔感のあるトイレを駅ビル内に設置します。



※イメージ

まちの玄関口にふさわしい駅 ～顔となる拠点づくり～

【整備方針】

V.鉄道事業者と連携して、都市機能の更新・充実を図ります。



【今後の主な整備内容】

■鉄道事業者による再開発

北口の開発方針

駅利用者および来街者をターゲットとした商業機能および、駅につながる利便性の高い事務所機能を有する複合施設を整備するほか、バスターミナルを再整備することで交通結節点としての役割を強化します。



(資料：名古屋鉄道株式会社)

南口の開発方針

食品等物販店舗に加え、飲食、サービス等の用途を取り入れた生活利便性の向上に寄与する店舗を誘致し、周辺居住者にも選ばれる駅南口のシンボルとなるような施設を目指します。



(資料：名古屋鉄道株式会社)

■一体的な整備の推進

鉄道事業者と連携し、空間や機能を一体的に捉えることで、不足する交通空間の創出・拡充を図ります。



※イメージ

駅からひろがるまち ～魅力的なまちづくり～

【整備方針】

Ⅵ. まちの文化やコンテンツと出会う機会を増やす仕掛けによる歩きたくなるまちづくりと併せて、シェア型モビリティを活用した移動機能の拡充により、まちの回遊性向上を図ります。

【これまでの整備と効果】

● QURUWA ボードの設置

QURUWAの中で活動する人たちが発信した情報を提示する、QURUWAボードを設置しました。

効果

- ・ イベント集客力の向上
- ・ 回遊性の向上



【今後の主な整備内容】

■ ウォーカブルなまちづくりの推進

駅からまち、乙川に向けて居心地がよく、思わず歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを公民連携して進めます。



■ シェア型モビリティの拡充

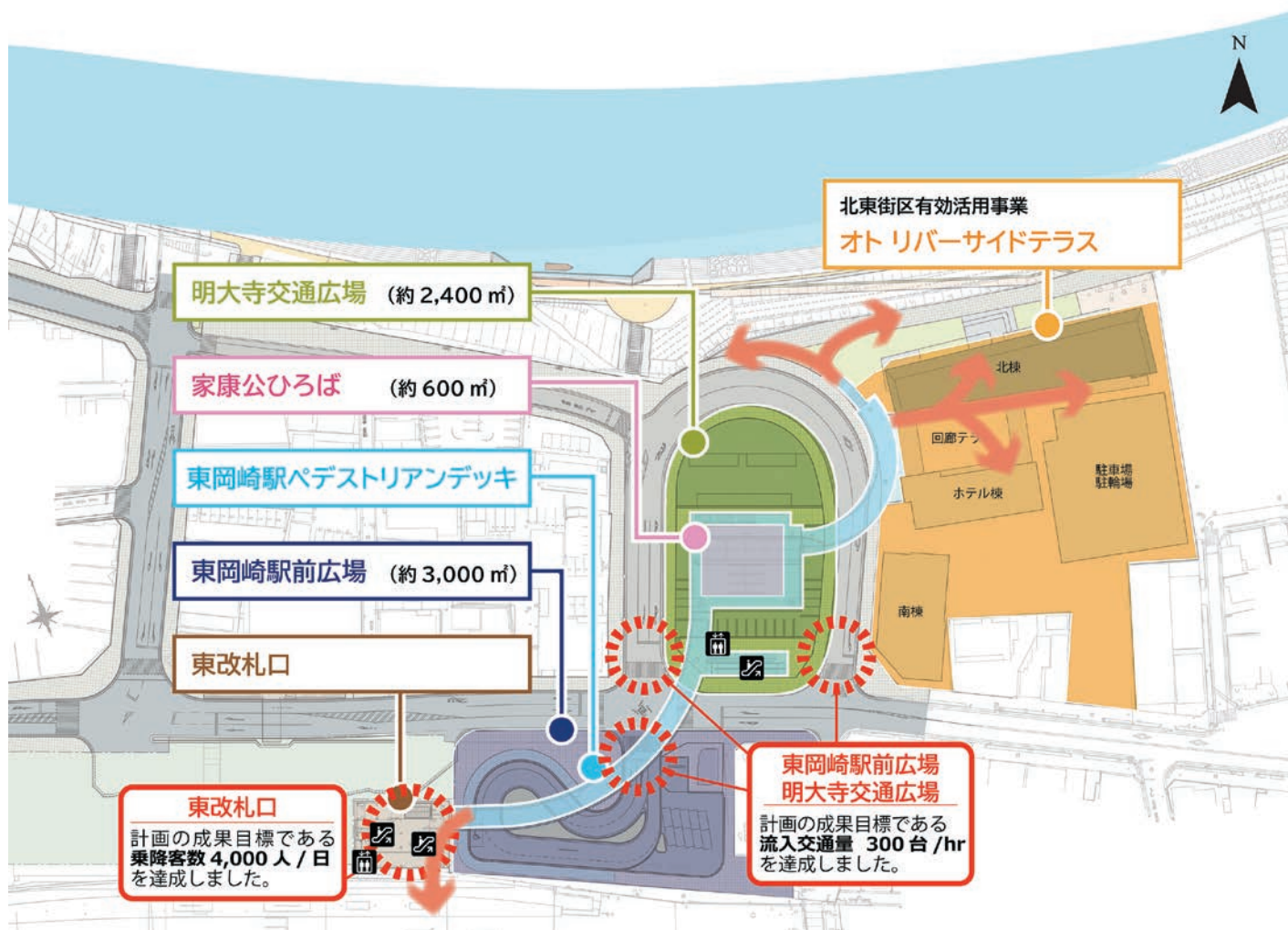
移動利便性向上やまちの回遊性の向上、環境負荷の低減を実現するため、シェア型モビリティの拡充を検討します。



5 東岡崎駅周辺地区整備事業の概要

第1期

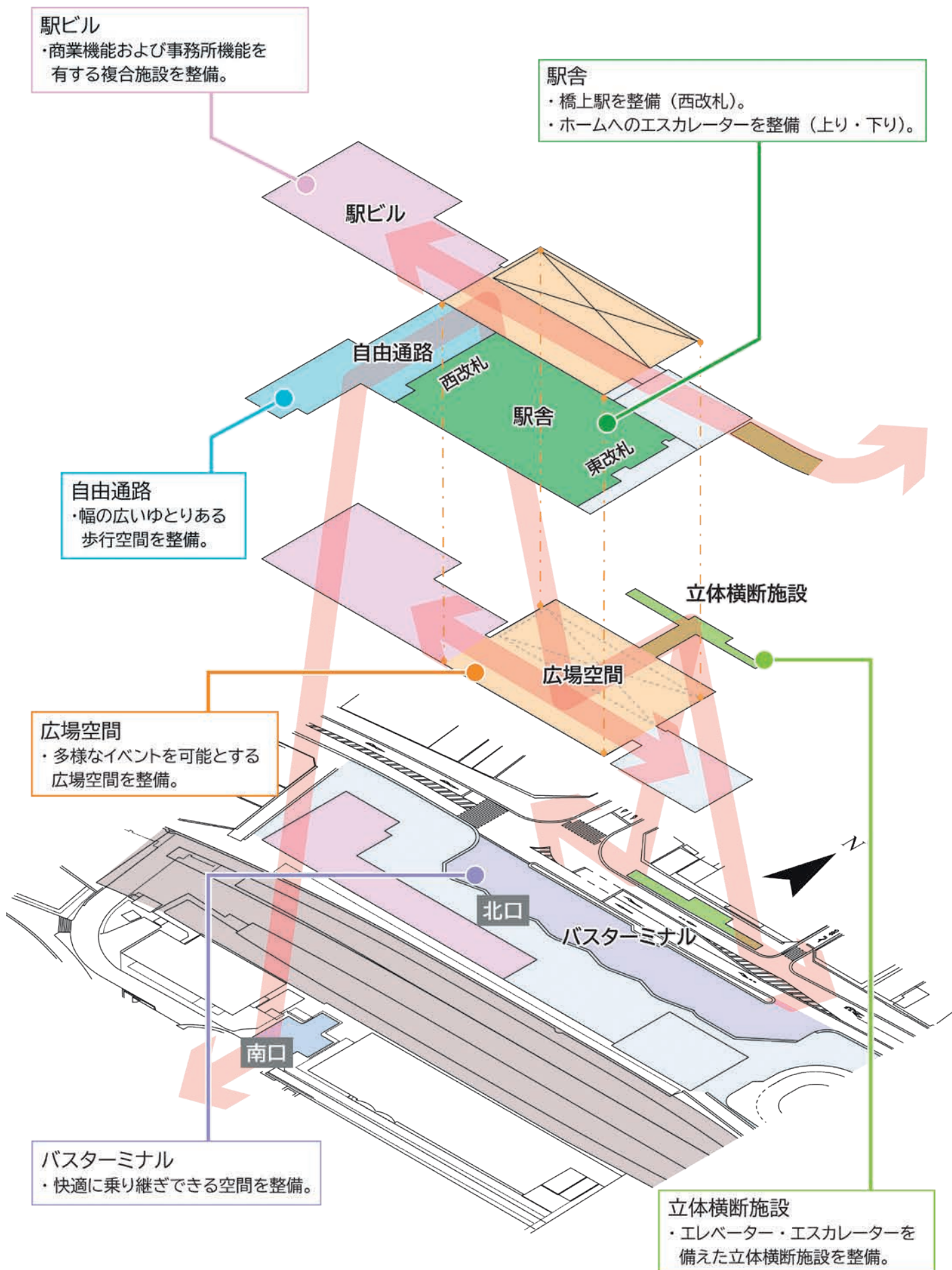
平成21年度の計画策定以後、令和2年度までの第1期において、整備が完了した箇所や効果等について示します。



◀ 第1期整備完了時
(2020年3月)

第2期

今後、第2期として整備を進める箇所や主な整備内容等について示します。



6 今後の整備スケジュール

東岡崎駅北口駅前広場の整備は、鉄道、バス、タクシーなどの公共交通機関を稼働させながら一体的に進める必要があります。効率的かつ効果的に工事が進捗するよう関係機関、関係権利者等との協議をすることで理解、協力を得ながら整備の目標スケジュールを立てて進めていきます。

整備内容等		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度～
西改札 〈橋上駅舎〉								
東岡崎駅 交通広場	南北自由通路							
	駅ビル							
	バスターミナル							
	広場空間							
タクシー・一般車 〈東岡崎駅前広場〉								
短時間駐車場 〈明大寺交通広場〉								
北側立体横断施設 〈岡崎西尾線〉								

東岡崎駅北口駅前広場整備計画 改定版

〒444-8601 岡崎市十王町二丁目9番地

岡崎市 都市基盤部 拠点整備課

〔電話〕 0564-23-6662 〔FAX〕 0564-23-6535

〔e-mail〕 seibi@city.okazaki.lg.jp



東岡崎駅と駅周辺を含めた「東岡崎駅エリア」のまちづくりを盛り上げていくため、東岡崎駅エリアのまちづくり（公民連携プロジェクト）のロゴマークを作成しました。

Instagramアカウント「HIGAOKA_2030」で東岡崎駅周辺地区の整備状況を発信しています。

